

平成 27 年度 第 4 回北九州市子ども読書活動推進会議(要旨)

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 22 日 (金) 10:00～12:00
- 2 場 所 北九州市立中央図書館 2 階 第 3 会議室
- 3 出席者 [委員]
山元悦子委員 (会長) 他 11 名
[事務局]
柿迫裕俊教育長他 16 名
- 4 議 事
 - (1) 「新・北九州市子ども読書プラン」(素案) に対するパブリックコメントの実施結果及び最終案について
 - (2) 今後のスケジュールについて
- 5 主な質疑、意見

事務局／ただ今から「平成 27 年度第 4 回子ども読書活動推進会議」を開始する。

この会議は、第 1 回目を昨年 8 月 17 日、第 2 回目を 10 月 6 日、第 3 回目を 11 月 13 日に開催し、その後、12 月 15 日から今年の 1 月 15 日まで行った「新・北九州市子ども読書プラン」の素案に対するパブリックコメントを経て、本日が第 4 回目の会議である。また、本日の会議は公開としている。会議の内容は、前回同様に後日ホームページに議事録を掲載する。

議事に入る前に、本日の資料を確認する。次第の次に委員名簿、市関係職員名簿、配席表、配布資料 1～4 までで、資料 1 「新・北九州市子ども読書プラン」(素案) に対するパブリックコメントの実施結果、資料 2 「新・北九州市子ども読書プラン」新旧対照表、資料 3 「新・北九州市子ども読書プラン」(最終案)、資料 4 これまでの検討経過と今後のスケジュール。

そして本日の毎日新聞の記事。本市の学校司書の記事が載っているので、参考まで。

では、ここからは議事の進行を山元会長にお願いしたい。

会長／議事に入る前に、傍聴人がいらっしゃいましたら、入室をお願いします。

事務局／傍聴人はいない。

会長／今年度は、3 回にわたって会議があり、今回は今年度最後になる。今日の会議の目的は、パブリックコメントの内容と、その反映状況を確認することと、「子ども読書プラン」の最終原案の内容についての確認が会議の大きな内容となる。

それでは、議事の (1) 「新・北九州市子ども読書プラン」(素案) に対するパブリックコメントの実施結果及び最終案について、事務局からの説明をお願いします。

事務局／「新・北九州市子ども読書プラン」(素案) に対するパブリックコメントの実施結果及び最終案について」について報告する。

手元の資料 1。今回の市民意見募集は、昨年 12 月 15 日から今年の 1 月 15 日まで実施した。

次に、意見の提出状況だが、17 名の方から意見の提出があり、意見数としては 45 件だった。内訳については (4) のところになるが、計画全般に関する意見が 2 件。7 つの施策のうち、施策 1 に関する意見が 5 件。施策 2 に関する意見が 18

件。施策3に関する意見が7件。施策4に関する意見はなし。施策5に関する意見が1件。施策6に関する意見はなし。施策7に関する意見が1件。それから、（仮称）北九州市立子ども図書館整備の基本的考え方に関する意見が3件。その他の意見が8件となっている。

（5）計画への反映状況としては、「①計画に掲載済みのもの」が9件で、全体の20%になる。「②計画への追加・修正あり」が3件で、全体の6.7%。次に、「③計画への追加・修正なし」が32件で、71.1%。「④その他」として1件あり、これが2.2%。

次に、A3の用紙の2ページ以降になるが、主な意見と市の考え方について説明する。

2ページに、計画全般に関する意見を2件頂いている。1番目は、今回の計画案に賛意を示すものである。2番目は、計画の周知を十分に今後行っていくべきだといった意見になっている。このうち、1番については、単に計画への賛意を示すもので、特に何か求めることがあるわけではないので、反映結果としては「④その他」ということで、全45件のうち、この1件だけは反映結果を「その他」としている。

それから、施策1「家庭・地域における子どもの読書活動の推進」に関する意見としては5件頂いており、その全てが、計画の今後の進め方に対する考え方を述べたもので、4番と6番はひまわり文庫について、5番と7番はブックスタート事業について、それぞれ取組みの充実についてご意見を頂いている。また、3番の意見は、親が読書をすることの大切さについて意見を述べられている。いずれも、家庭や地域における読書活動を進める上で貴重な意見であり、各取組みを進めるにあたって、その趣旨を活かしていきたいと思っている。しかしながら、計画案に追加・修正までは必要ないものと考えている。

次に、3ページの施策2「学校における子ども読書活動の推進」に関する意見。ここでは、18件の意見を頂いている。意見の内容としては、学校における読書活動の取組みに関して、学校図書館や司書、10分間読書などについてのご意見を頂いている。意見の主なものとしては、8番の学校司書の増員を希望するといったものであり、次の4ページの15番は、学校図書館でボランティアとして活動してきた経験から、学校図書館の人と本の充実を希望するといった意見があった。

これらについて、市の考え方としては、先ほどの3ページの8番については、平成32年度までに62中学校区に62名及び、特別支援学校に1名の配置を目標としている。4ページの15番については、学校司書の増員を予定していることと、ブックヘルパーとボランティアの方々にも協力をいただきながら、大人の優しい声掛けができる学校図書館、本を読みたくなるような紹介や、掲示物が充実している学校図書館など、児童生徒が自然と本に手を伸ばす環境づくりを目指している、という考え方を示している。

続いて、6ページ。施策3「市立図書館における子ども読書活動の推進」に関する意見は、7件頂いている。市立図書館における読書活動の取組みに関して、行事の充実や人材育成に期待する意見などを頂いている。主な意見としては、7ページが一番上、32番になるが、「ブックトークマイスターを学校の司書教諭の中から育成する」というもので、学校の読書の時間を使って、ブックトークが上手にできる人材育成を行うという意見である。これについて、市の考え方としては、現在、司書教諭を含む学校図書館教育主任を対象に、講習会を実施している。

講習会では、ブックトークなど、さまざまな読書活動についても実演をしている。今後も子ども図書館を整備し、人材育成の充実に努めていく、としている。ここで「子ども図書館を整備して」としているのは、子ども図書館の機能の1つとして学校図書館支援センターを想定していることによるものである。

次の施策4については、ゼロ件。

続いて、施策5に関する意見が1件。33番。子ども司書は、一般の司書資格が取れる大学のコースに準じて育成することを提案するものだが、これについての市の考え方としては、現在、小学5、6年生と中学1、2年生を対象に養成講座を行っている。その内容は、対象の子どもたちが活用できるカリキュラムとしており、実際に本の装備や窓口実習などを図書館で行っている。今後も、習得した知識等を学校で活かせるような講座となるように工夫をしていきたい、としている。

次の施策6については、ゼロ件。

施策7「主体的に読書に関わる子どもの育成、支援」に関する意見も1件ある。34番の、ビブリオバトルではなくフォーマルなブックトークを推奨しますという意見がある。これに対して、市の考え方としては、新しいプランでは、子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら、自主的・主体的な読書活動を推進することを活動方針の1つとしている。子どもが読書に楽しむきっかけとなるような取組みを推進していくとしており、イベントの形式ではなくて、実質的に子どもにとって読書活動のきっかけとなるようなものであれば取り入れていきたいという考え方を示している。

続いて、「(仮称)北九州市立子ども図書館整備の基本的考え方」に関する意見が3件。3件とも、おおむね、子ども図書館整備に賛意を示しており、期待を寄せている内容になっている。具体的には、35番の大変良い計画で高く評価している。北九州市内と近隣地域を題材とする図書コーナーがあれば、郷土愛の醸成につながる。また、勝山公園内には平和記念碑がある。恒久平和のために、反核・反戦・平和の図書コーナーを希望する。それと36番、文学館は中央図書館と建物が一体になっているので、「子ども図書館」と連携効果が上がるよう、文学館ロビーや交流ステージを活用してイベントを開催する。さらに、37番では、子ども図書館が造られることを大変うれしく思っている。文学館や松本清張記念館との連携が重要であり、特に文学館と一緒に「シビックプライドの醸成」のための拠点として機能するよう位置付けて、施策を検討すべきなどの意見があった。

これらについて、市の考え方としては、35番に対しては「子ども図書館」は、子どもの読書活動を総合的に推進するための拠点として、今後、北九州市子ども読書活動推進会議や市民の皆様の意見を聞きながら、具体的な整備内容を検討していく。子どもが本市の誇るべき歴史・文化・芸術・スポーツなどに触れ、郷土に愛着を持てるよう、子ども図書館で豊富に資料収集・提供することが重要と考えている。子ども図書館が担う機能に「シビックプライドの醸成」を加える。また、子ども向け専門図書館として、平和に関する図書も含め、良質な資料を豊富に資料提供していくとしている。36番に対しては、文学館を活用した本関係のイベントについて、今後中央図書館と文学館で協議をし、検討していく。友の会で協力が得られる具体的な事業であれば、今後、友の会にも投げかけていく。次のページの37番に対しては、子どもたちが文化や芸術を通して、北九州市に誇りを持つようになるためには、ご指摘のとおり、図書館と文学館が連携することは大

切である。文学館と中央図書館で協議をしながら、施策を検討していくと考え方を示している。

これらについては、案の修正を行いたいと考えている。従って、この3件の反映結果については「②追加修正あり」としている。修正内容については、後ほど説明する。

8ページ以降に「その他の意見」として8件ある。これらは、直接この計画の素案の内容に該当しない意見である。以上がパブリックコメントの実施結果についての報告となる。

続いて、このパブリックコメントの市民意見をどう反映したかを示すものとして、新旧対照表を資料2として用意している。また、最終案を資料3として準備している。

まず、資料2。図書館と文学館の連携について、これをしっかり行ったほうが良いというご意見であった。もともとの案としては、新旧ある旧のほうの「関係施設・団体が行う各事業への相互協力」ということで、これを1つの取組みとしていたが、「図書館と文学館」ということが随分出てくるので、文学館というのを頭出しして、「文学館など関係施設・団体が行う各事業への相互協力」という形に変えたいと考えている。

26ページの資料3。こちらに取組みが表になっているが、31番の部分。ここが重点事業で、新規事業になるが、「文学館など関係施設」ということで、文学館ということ新たに挿入したいと考えている。これに合わせて、14ページに主な取組みの全体を表に挙げているが、この中の、右側の主な取組みの4行目に、やはり同様に「文学館など関係施設」ということで、「文学館など」を挿入するものである。

また資料2に戻り、子ども図書館の機能ということ、これまで記載がなかったが、今回、市民の意見を受けて「シビックプライドを醸成する図書館」ということで、子どもたちが、本市の成り立ちや地域特性、誇るべき歴史や産業、文化・芸術、スポーツなどに触れることができるような資料の収集、提供。それから、市立文学館とも連携し、本市ゆかりの作家の作品や本市を描いた文学作品を子どもたちに分かりやすく伝える場の提供ということ、この部分を挿入したいと考えている。

それに応じて、それ以降のもの順番が落ちていくのと、「一部地域の」と書いてある部分の削除の必要がある。これについては、資料3の30ページになる。子ども図書館の担う機能が、29ページの一番下から1、2、3、4、5、6とくるが、2つ目のところに「シビックプライドを醸成する図書館」ということでアンダーラインを引いているが、この部分を挿入したいと考えている。これに伴って、もともと子ども向け専門図書館の下の丸のところに「良質な資料を豊富に収集、提供」としており、「地域の歴史」というのがあったが、このシビックプライドが入ってきたので、ここの「地域の」というのを落とすというものがある。そういう変更を加えて、最終案としていきたいと考えている。

会長／初めて見る資料なので、目を通す時間を3、4分取り、委員の皆様のご質問・ご意見をお伺いしたい。

事務局の方、1つ質問だが、このパブリックコメントに関する市の考え方という文言は、何らかの形で公表というか、リターンをするのか。確認をしたい。

事務局／今日、会議でご意見を頂き、今後、教育委員会会議にかけて、それから、議会の常任委員会などにも報告をし、最終的に最終案を出すときには、このパブリックコメントの結果も一緒に公表していくことになる。

会長／それでは、意見交換の時間に入る。大きく、パブリックコメントの内容とそれに対する対応、考え方についての意見交換、それから、原案として最終案が上がってきた子ども読書プランについての感想と、こういうことができるだろうというような情報交換ということ、2つの柱にして進めたい。

まず、パブリックコメントの内容と、その対応、それに伴ったプランの改編等について、何か感想などお願いしたい。反映の結果としては、A3資料で②と書いてあるところ。その点については、プランに反映したということである。

戸畑図書館の分館閉鎖についてのご意見が41、42番あたり、かなり強い感じでしたが、これに対してはここでどうこうできるものでもないのが、具体的にはどのようなフォローができるか。

事務局／絶対に反対という意見ではない。ただ、「残念だ」という意見が多く出ており、その内容はどうしてかという、やはり、子どもたちが歩いていける場所にあってほしいということで、市民センターのひまわり文庫なども充実するという話をした。今でも既に本は置いてあるが、全く知られていないようなことが多くあるということと、本の数が少ない。それと、借りっ放しで、興味のある人だけ借りていくのだけれど、司書がないので、その辺が図書館とは全然違う。そういうことも含めて、残念だという意見が多かった。

それと、司書の資格を持っていながら活動されていない方がたくさんいるのかという意見があって、そういう方を見つけて、市民センターなどに配置するのもどうかという意見が出ていた。

会長／ひまわり文庫の存在の周知と、本の充実、できればそこに人材をとという形でフォローすると良いという意見。

では、その他の点について。

委員／資料2で示されたことについては、みんな賛成だが、特に文学館との連携ということで、結構表彰式などが同じ日に行われたり、表彰式一つをとっても、多分、お互いに連携していないという印象を持ったので、これから連携していくというのはとてもいいのではないかと思った。ここに書かれていない「檜山荘子ども俳句大会」などもあるが、そういうものも文学館で、俳句を掲示したりしている。多分、お互いに重複しているものもあるし、お互いに知らないで行われているものなどもあると思うので、そういうものを連携していったら、もっと広がっていくのではないかと思う。

それと、「シビックプライドの醸成」についてだが、これもとても大切なことである。以前、理科が主だったと思うが、ジュニアサマースクールの国語とか社会とか英語があった時期がある。その時に、ジュニアサマースクールの国語では郷土にたくさんの文学者がいるということで、小中学生が森鷗外の旧居とか、火野葦平の所とか、そういう文学散歩を少ししただけで、子どもたちはとても興味を持って、こんなにたくさんいるのかという感想を持った子がたくさんいた。

あと、これは子ども司書でやっていると思うが、例えば図書館の、普段行けない書庫のほうまで降りて行って、自分の誕生日の新聞を見つけたり、いろいろな活動をやっていたが、何か活かせるものがあると思うし、これから先、北九州市民としての誇りを育てていくというのは大事ではないかと思う。

会長／「シビックプライドの醸成」というのは、今回、新しく項が立ったところだと思う。それについての賛同のご意見と具体的な案、ジュニアサマースクールやバックヤードツアーというような形で、本に親しみを出せる、それを通してシビックプライドを育てていくというアイデアも頂いた。その他、いかがか。

委員／2点ある。まず、A3の資料の3ページのところだが、「やはり先生方のご指導にかかっていると思います」とあるので、これは重く受け止めなければならないと学校関係者としては思っている。ただ、教師の意識改革も必要だと思っているが、現状としては、図書館イコール国語科。小学校は全教科やっているけれども、ある程度、得意教科というのがあり、どちらかという、図書館といたらすぐ「あ、国語の先生ですね」という感じや、「国語の先生、あ、じゃあ、図書館のことで」とかいう感じの傾向が見られる。図書館というか、読書というのは、やはり心の教育も含めて、国語科だけではなく、社会科でも、家庭科でも、クラブ活動でも、本当にいろいろな教育課程の、全部の中でやっていかなければいけない。そういう意識を、もっと教師が持たなければいけないと思っている。そういった点を、これは担当が全部「指導第一課」となっているが、指導部の先生方と一緒に、そういった意識をこれから持っていく必要があると思う。

それに関連して、2点目になるが、10番に「学校図書館教育指導計画を立てて」とある。これも、読み聞かせなど、国語科の中でという形になりやすい。それだけではなく、教育課程全教科の中で読書活動や、図書館を活用していく、調べ活動をしていくといったことを反映させていかないと、本当に今までと同じという感想を持つ。

今回、この機会にきちんとした条例まで出来て、何かやっていくのであれば、これをいい機会と捉えて、学校も意識改革を行って、指導部の先生方含めて一緒にやっていかなければいけないと思っている。いい意見を頂いたのではないかな。

会長／福岡教育大学の図書館は「図書館」という名前をやめて「学術情報センター」になった。恐らくそういったあらゆる分野の学術的な内容の質の向上をということだと思う。それは中学校でもそうだと思うが、国語科だけのイメージではなくて、さまざまな情報を得るセンターというような意識改革が必要だという意見だった。これは、この市の考え方というのに盛り込むことができるのかどうか分からないが、意見として承っておきたい。

それから、10番に関して、3行目の「図書館教育指導計画」。これは、具体的な意味としては、図書館活用計画ということか。もう少し説明を。

事務局／学校図書館教育の指導計画ということで、4月末に学校から教育指導計画を出してもらった中の一つとして、学校から提出してもらっている。まさに今、委員がご指摘のとおり、国語科だけということではなくて、全教育活動、教育課程全体を通して進めるものであり、大きく具体的な目標としては、学校図書館の機能の充実、利用の推進、読書活動の推進という形で、各目標を学校から挙げてもらっている。

また、組織としても、校長、教頭を中心として、学校図書館教育主任の下で、各教科の主任や各担任、あるいは学校図書館職員やブックヘルパーさんと連携しながら、学校図書館教育を進めていくという形での指導組織を各学校で示してもらい、指導計画を作成してもらっている。何よりも、学校図書館教育の推進を通して、思考力・判断力・表現力等の育成や、望ましい読書習慣の形成ということ

を目指すもので、まさにご指摘のとおり、そういった学校全体を挙げて取り組んでいくという計画を出してもらい、これを基に推進していくということである。会長／よく分かった。そういうものを4月末に挙げてもらうという内容。

委員／A3の紙のパブリックコメントのところの、5ページの19番「学校読書ボランティアのスキルアップの機会を持つこと」とあるが、学校にはブックヘルパーと読み聞かせボランティアという2つの読書に関するグループがいると思うが、各学校、市において、例えば小倉南区のどの学校にブックヘルパーがいて、読み聞かせボランティアがいて、それは学校の中のお母さん方がつくっているものなのか、外部からの読書ボランティアなのかというのは、把握しているのかということ。

あと、それで読み聞かせをして、朝読みがどれくらいされているかということと、学校によってはブックトークも授業の中で行われている学校もあるが、その学校がどれくらいあるのかというのは、現状をしっかりと把握しているかということ。

それと、7ページの32番の「ブックトークマイスターの育成」で、「今現在、ブックトークなどさまざまな読書活動についても実践しています」というところで八幡東区とあるが、区によってだいぶ差があると感じる。以前、私が活動していた守恒小学校でブックトークは授業の中で年1回、3年生以上に行っていて、ブックトークに関するレクチャーというか、講習会などが全くなく、独自でブックトークの講師の先生を招聘させてもらって行ったことがある。その辺は、ブックトークをしている学校がどのくらいあるのか等、現在の学校での活動というのをどれくらい把握しているか。

会長／今、分かる範囲で願います。

事務局／どれだけ把握しているかという質問であるが、学校が募集して応募いただいている、いわゆるブックヘルパー。これはスクールヘルパーとしてご協力いただいているので、そのブックヘルパーさんについては、今、全校で、小中学校でお手伝いいただいているということでの把握はしている。ただ、各学校、特に小学校が多いかと思うが、地域の方の好意、または地域の読み聞かせの団体等の方々が無償で、いろいろな読み聞かせであったりブックトークであったりといったことを、朝の時間や業間の時間等でしていただいているということは把握しているが、どれだけの数については、学校がそれぞれ、これまでの関わりとか、お手伝いいただくという形でのことなので、細かな部分については把握していない。

それから、いわゆるブックトークであったり、ビブリオバトルであったりというのは、例えば、先ほどの年間指導計画の話にもつながるが、4月23日の「子ども読書の日」について、多くの学校で読書集会とかいわゆる低学年にそういった読み聞かせの時間を持つというような工夫で、多くの学校で行っている。また、頻度は各学校によって違うが、年間を通して、そういった取組みをやっている学校はだんだん増えているというところではないかと把握している。

委員／今後のことだが、学習会を開くにしても、活動の薄い所を厚くするということでも、現状を見て何か施策をするということが大事だと思うので、読書ボランティアが入っている所で、こういうことがこの区のこの小学校で活動しているという現状や数などを、しっかりと把握してもらえたらと思う。

委員／今、幾つか出た意見に少し付け加える形になるが、さまざまな先生が関わるということは、読書推進において、子どもたちが大人になるまでに出会わなくては

いけない、たくさんのジャンルに出会うことになる。文学館は、主に小説とか、子どもの分野でいうと少年少女小説やヤングアダルト文学と、やはり文学に特化してしまう。実は、いろいろな教科の先生にも関わってもらうことで、多様なジャンルを子どもに手渡すきっかけにもなるし、文学館だけではなくて、科学関係などにも本当はつながっていかなくてはいけないということである。

ブックトークは、もう十数年取り組んでおり、司書の講習で受けたそのままのフォーマルなブックトークもやっているし、また、それだけでは現場で足りないものなどもある。用語集か何かの中に、ブックトークのところに、「テーマを掲げて、そのテーマに関連する本を紹介する」という書き方になっているが、「テーマを設定して、それに関連するさまざまなジャンルの本を紹介する」というのが正しい。この「さまざまなジャンルの本を紹介する」というのが意外に難しく、どちらかという文学系ばかりになるので、ブックトークは本当に専門的な司書、特に現場で司書をやってたくさんのジャンルの本に触れている方でないと、実は難しいという面がある。

でも、今、簡単にできるブックトークの方法がたくさんあり、私も十数年やってきて、ずっと依頼があり続けるということは、本当に子どもをいろいろな本につなげるいい方法だと思う。ぜひ、学校の現状の把握と、どの程度のブックトークをしているのか、司書がしているのか、ボランティアさんが1冊だけ紹介しているのかとか、そういうことも含めて、少し詳しく調べるのと、文学だけに特化せず、学校の全教科の先生に関わっていただくということが、実はとても大事だと思う。

会長／学校へ入っているボランティアさんたち、ブックヘルパーさんたちの現状把握の必要性、そこから立ち上げて、突っ込んだ形でブックトークの質の問題とか、そういったものも見えていく必要があるのではという意見だった。

今、パブリックコメントに関するということだが、幅広く、こちらの読書プランについての意見もそろそろ承りたい。そこで7ページで、この活動の働きかけで、本が好きな児童生徒の評価が後退しているのが少し目立つが、ここの小学校にはこういうイベントをする方がたくさんいてというような現状把握をして、指摘できることがあるか。学校にいろいろなブックヘルパーさんやブックトークを積極的になさる方がいるという現状と、その地域の児童生徒の本好きの割合の過多ということは、データは取れない。本が好きな児童生徒の割合の低下というのは、どのように取ったのか。

事務局／学校における読書活動の推進は、今各学校において取り組んでおり、取組み等が低下しているということでは決してないと認識している。ただ、子どもの読書に対する意識として、それぞれの年度の子どもの平均的な数値としては、多少、前後するところではあるけれども、やはり一つは、学校図書館司書、学校図書館職員の配置を順次拡充しながら、配置換えということで、不在となった学校や、地域によってボランティアさん、ブックヘルパーさんの協力というのが難しくなっている学校もあるとは聞いている。ただ、学校司書がいなくても、ブックヘルパーさんの協力で、子どもたちの読書活動を維持している学校も多い。全体として、そういった中で数値の変動として捉えている。ただ、そういった子どもたちの読書に対する意識というのは、やはり全国的には若干下がっているところもあるので、そういったところを踏まえながら、さらに推進していきたいと考えている。

委員／先ほどから、専門性のお話とか、いろいろ続いている中で恥ずかしいが、地域のことは市民センターが担っているという自負があるので、現場感覚というか、現実的な話をさせていただく。

目標になっている全中学校に図書館司書の先生を配置されたとしても、そこから校区の何校かある小学校に週のうち1回、回れるか回れないかという現状で、実際には学校の図書館が開いていないという所がすごく多い。そうなると、開けることが第一の目的ではないかと、私は地域で活動をしている。

特に中学になると、保護者をスクールヘルパーにとすることで募集しても、大体子どもが中学に入ると働き始めたり、保護者のボランティア参加というのがなかなか望めないで、やはり地域の、「いいよ、子どものために図書館開けるよ」という善意の市民の方々を、何とか集められないかと思っている。そうなると、専門性とか、一歩踏み込んだ子どもの読書活動の応援支援という話だと、「私なんかは無理だ、何もできないから」とおっしゃる方がすごく多い。まず、専門性とまた別の部分で、とにかく学校の図書館が常時開いている。昼休みと放課後に、もしくは15分休みに、子どもたちが本を見たり触ったり、借りに来られるという状況をつくるのが、私は地域の使命として考えている。

そうなると、あまり研修の充実とかそういうことよりも、学校の敷居が高くないという状況で、市民センターを中心に、養成講座という大げさな名前だと、なかなか皆さんが集まりにくいかもしれないので、「地域の方、よかったら図書館を開けに来てください」という働きかけを市民センターからできないものかと、今、考えている。あまりブックトークですとかビブリオバトルですとか、一般の、特に年配の方々が耳なじみのないことばかりが先に出ると、「私には無理」という感じになるので、何とか、裾野を広げるという観点からも、ぜひ、もう少し優しい門を開いてもらえたらと思う。

会長／今のご意見について、市民センターを中心に、人材育成というのと、また少し固いけれども、そういう企画はできるかというお尋ねである

委員／少しだけ付け加えさせていただく。読み聞かせボランティアは、目の前で子どもたちの反応を見ることができて、そこにまた一つのやりがいを感じることができ。ブックヘルパーさんの場合、そこに来て何かして下さる。本当に開けることが大事で、私も二十数年前に、たった一人で図書室を開けるために学校側に申し入れた。開くことが本当に大事なことで、伺った中学でも、子どもたちが、図書館に行きたいけれども閉まっているという話もよく聞く。ブックヘルパーさんのやりがいをどういうところに持っていかを少し考えると、もう少し増えるのではないかと。ブックヘルパーさんのやりがいはどこにあるのか。本をそろえたりするのがとても好きという方もたくさんいらっしゃるが、読み聞かせボランティアとまた違うやりがいがあれば、もっと裾野が広がるのではないかとと思う。

事務局／まさにご指摘のとおりだと思う。ブックヘルパーの募集に際しては、保護者、または地域の方に、いわゆる学校図書館の充実のお手伝いという形で、実際には学校図書館職員や図書館主任等の助言の下で、または管理職等の助言の下で、できることをできる範囲でやっていただくことを第一に考えている。学校図書館に関わっていただき、年に2回ほどブックヘルパーさんの研修会としてポップを作ってみたり、あるいは本を整理してみたり、ノウハウをお伝えする。あるいは違う学校の図書館がどんな環境になっているということを実際に見ていただくとい

う機会も、学校の図書館に関わっていただくブックヘルパーさんには必要であり、研修等もやっている。

ただ、先ほど指摘もあったように、ブックヘルパーさんにこういうスキルがなければ、なっただいては困るとか、あるいはこういうスキルを持っていただかないといけないということになると、非常に敷居が高くなってしまう。当然、スキルを持った方がお手伝いいただくと非常に学校としても助かる。ただ、全ての方ということではなくて、やはり子どもにとっての、例えば大人がいるということでの心の居場所であったり、あるいは大人の方から声をかけていただいて、本を手取るきっかけをつくっていただいたりという意味でも、ブックヘルパーさん、いわゆるボランティアさんがたくさん学校にいて、そういった推進ができると考えているので、多くの方にそういう協力をいただき、登録していただくということが大事ではないかと思っているし、そのように進めていきたいと思っている。

会長／「人材の育成」という文言はどこかにあると思うが、それももう少し幅広く捉え、敷居の高くないような研修といったものを広げていきたい。実際、今、していることが報告にあったけれども、そういったところが見えるような形で、どこか反映できるといいと思う。

事務局／それから、開館のことも指摘があった。昨年度、小学校においては、全ての学校で、子どもが自主的に読書活動に取り組める時間。いわゆる授業ではなくて、15分の中休みであったり、昼休みであったりといった時間で、各学校が工夫して開けるということが、中学校においても、その学校の中の実情の中で、自主的に図書館を利用できる時間ということでの開館というのは実現できていると把握している。

会長／委員の実情の感覚と合致するか。

委員／小学校は全校ということか。

事務局／小中学校。昨年度は100%である。

結局、8時半の開校から5時までの閉校まで、全てずっと開いているという状態ではない。そのところを考えるには、事務局が説明したような状態で、その学校で最大限開けるようにということで、要所要所の時間帯は開けるようにというのが、今年度、続けていきたいとは思っている。

委員／それに水を差すつもりはないが、やはり各学校の実情に合ったということで、知っている限りだと、中学になると頑張って図書委員さんたちが開けたり、それでも放課後、なかなか開かないので、やはり学校で本が借りられない。どんな本があるか知らない生徒がたくさんいる。これからの努力目標だと思うけれども、先ほど市民センターでと言ったのは、やはり地域の方たちの情報もたくさん集まるし、私どものようなコーディネーターなどが学校に足を運んで、校長先生や中学校の先生方と連携を取りながら、つないでいけたらと思っている。

先ほど説明にもあった、他の学校を回る研修とか、少しリーダー的な役割の方が受ける研修は参考になって、他の学校の図書室を見て、「ああ、こんなかわいらしいポップを作っている」とか、子どもと直接触れ合うことで、子どもから「図書室のおばちゃん」ということで親しんでもらったりということで、やりがい十分感じられるのではないかと思っている。

会長／研修内容について、積極的な評価をいただいた。草の根的に、実情に合った形で進めていければという感想を持った。また、委員の立場からの推進というのをお願いしたい。

委員／今度この推進計画が出来た段階で、ボランティアさんの活動状況や学校の開館時間、どういう時間帯が開いているのかなど、そういった調査を、一度、きちっとしていただけないか。「こんなふうに聞いているけれども、こんな感じがする」という話では、本当のところが見えにくいので、子どもの読書のアンケートは採っているけれども、環境の状態をもう一度、きちっとアンケートに採ってみられるといいのではないか。

それともう1つ、これはここで話していいのかどうか、少し分からないが、図書館に勤めていたものとして1つあるのが、「シビックプライドを醸成する図書館」という話が先ほどから出ていて、とてもいいと思う。いいなと思うけれども、実は、資料がないというのが現実。北九州市史の子ども版というのは作られていないという現実がある。ここで資料を収集するときに、何を収集するのだろうというのを少し思った。実際にサブテキストとか何とか、学校でもいろいろ地域のものをつくっているのではないかと思うが、そういうものもきちんと情報を挙げて提供して、図書館に集積をしていくということ。

もう1つ、少し大掛かりになるが、例えば北九州市史の子ども版みたいなものを作っていくとか、ここからは少し離れると思うが、資料・情報をきちんと蓄積して子どもたちに提供するためには、そういうものを作っていく必要があるのではないか。例えば、地域のPTA活動でいろいろ集積したような地域の情報などがあれば、子どもに分かるように書いてもらったものを作るなど、この図書館を本当に実効性のあるものにしていくということが大事なのではないか。

会長／2つ提案をもらった。1つは、この年度のプランを推進するに当たって、さらにきめ細やかな状況把握、全体的な周知というものを一歩進めたもの。学校ごとに現状とか困っていることという実情を自由記述するようなもの。

委員／客観的な、どのくらい学校図書館が毎日開館しているのか、ボランティアさんが何人くらい来ているのか、毎週か、月に1回、ボランティアさんが読み聞かせに来ているのか、そういった実態調査というものを、一度、全校でやってみると、今の読書の状況というのが把握できるのではないか。そこからこの計画をどう進めていくかとか、そういう一つのよりどころになるのではないかと考えた。

委員／実際に、PTA協議会の方でも、教育環境委員会ということで、読書推進に関して意見交換しているが、今委員が言われていたように、200校を越す。その中で、連合会ベースや、いろいろな話が上がってくるが、あまりにも温度差というか、やっていることなり状況が違いすぎて、どこを基準に見ればいいのかというのが結構分からない状況というのが実際の話である。「うちの学校ではこうだよ」「うちの地域ではこんなものがあるよ」というのが、少し温度差が激しすぎる。

実際に教育環境委員会、PTAの方でも、実際の現状アンケートを採ろうかという話にもなったが、実際にPTA側からアンケートを投げかけるにもハードルが高いというか、まず教育委員会に許可を得て、校長会の賛同を得て、200校のデータが上がってきて、誰が集積してとなると、結構、ボランティアベースでやっている私たちとしては負担が多くてできないと皆さんから逆に私が突っ込まれるくらいだ。

なので、委員が言われたように、できることならば教育委員会ベースで情報をまとめてもらえると助かる。その中で、こういう取組みがある、こんなところもあれば、あんなところがあるという把握をしないと、実際、どこを基準に、どこを目指して、どういうふうに啓発していけばいいのかというのが、少し漠然とし過ぎ。こういう話をするとし訳ないけれども、父兄ベースで要請すると規模が大きすぎて、7万人の生徒児童の保護者、みんないろいろな立場の違う方がいて、こういうことをしたいと言っても、なかなか賛同いただけなかったりするので、どこか情動的なものを挙げてもらって、その中で私たち保護者のほうでできることを考えたい。

会長／まさにそのとおりでと思う。まず、学校からという感じから、地域はその次というか、なかなか取組みを全体規模でというのは難しいという事情は重々分かる。

今、委員から出たきめ細やかな状況の把握ということだが、こういうふうにプランが出来ているので、それを物差しというか、指標として、これはどうですかという形での状況把握をした上で、現状として何が困っているかとか、何ならできるといふようなことの吸い上げ、トップダウンのこういう枠組みができたので、あとはその枠組みに照らして、うちの学校で困っていることや、やりたいことという形で促すということも可能かなとは思った。実態把握の草の根的なところを次に進め、それに対応した形で施策をするというのもいいやり方ではないか。

事務局／皆さんから意見を頂きながら、今回プランを作って、前の計画に比べていろいろな部分が詰められて、随分いい計画になった。また、今回も頂いた意見で、おっしゃるとおり、今年度はプランづくりをずっとやってきたので、28年度から、5カ年間計画を進めていくので、ここに掲げていることを実際実行していくために、どういうところから手を付けるか。いきなり全部は手を付けられないところがあるので、まず、どういったところをしっかりと客観的なデータをそろえて、どういうところに軸足を置いてやっていくのか、できることからそういった状況把握に努めて、実効性のある取組みを進めていきたい。それから、PTA協議会の方でも、いろいろな協力の中で把握ができればと思う。

それと、シビックプライドの関係の資料が少ないというのは、これも確かに我々も少し前から思っていたが、各学校の学校図書館を見てみると、いろいろ地域にちなんだ、学校のエリアに合っている資料があったり、前回か前々回に委員が言われた、学校の倉庫にも実はかなりの資料があるというお話がある。今ある資料でも、指導部の方で、各学校で使う郷土の偉人だとか伝説だとか、そういうものを副読本で使ったり、そういう資料が既にかなりあるが、さらにいろいろ集める工夫を行い、郷土のことがいろいろ分かる資料は、単に集めるというより、収集する努力をしていく必要があると思っている。

会長／次期計画の推進に当たって、各学校に所蔵されている資料の調査や収集ということが、一つ企画できるのではないか。実施するに当たっては、予算や人的なことなどいろいろとあると思うが、前向きにやっていただきたい。

委員／1点だけ、先ほどの実態調査のところ、学校のほうでいろいろと話題になっていたが、地域との連携を考えるのであれば、やはり実態調査は市民センターの方も行ったほうがいいのではないかと思う。パブリックコメントで読書ボランティアが激減していると書いてあったので、やはりPTAのほうもそうだが、市民センターで推進していくためには、ボランティアの方がいったいどのくらいいる

のか、激減しているというのが本当であれば、連携は難しいのではないかと考えている。

会長／何番に書いてあるか。

委員／9ページの44番。連携のほうで、少し気になった。あとは、子ども読書活動推進のための関係機関の連携・協力の推進というのが、資料3の25ページの下の枠のほうで、28番というのがあったので、ここは大丈夫かなと少し心配になった。もし実態調査をするのであれば、市民センターのほうもお願いできないか。

会長／これについては、状況はいかがか。このパブリックコメントの指摘が適切なのかどうかということ、まず確認したい。

事務局／44番の件については、親子ふれあいルームのボランティアの方、それから市民センターの読書ボランティアということで、親子ふれあいルームはやはり小さい幼児とか親子が来るが、市民センターの読書ボランティアというのは、またもう少し年代が上の部分になってくるし、ここで書かれていることがそのままイコールかということ、少し疑問には思っている。

市民センターの実態調査をということで、それは、先ほど言い足りなかったが、私もそう思っており、学校関係の実態調査のことばかり話が出ていたけれど、これから先、子ども読書活動を盛んにしていくためには、やはり地域の市民センターを中心に、地域の方々のご協力が必要になってくるので、市民センターでひまわり文庫がどういう状況なのか、ボランティアの方々がどういう状況なのかというのを調べる必要はあると思っている。

例えば、各市内、7区あるが、小倉北区の幾つかの小学校区では自分たちでひまわり文庫とは別に、地域で選書委員会などを開いて、地域で図書をそろえて読書を盛んにしようというようなエリアもあるし、読書にあまり取り組んでこない地域もあり、ボランティアの方も地域差があるという話があったが、やはり、市民センターでも地域差があるように感じている。そういったところの調査もぜひ検討していきたい。

委員／今、図書館の調査をするという話になっているが、学校も多分、毎年教育委員会が調査をされているので、ある程度のデータはあると思う。少し危険だなと思うのは、今、私の学校は、たまたま昨年ボランティアが2人いて、今、10人くらいいる。ほとんど学校図書館も常時開館している。鍵を掛けなくても本1冊もなくなるしないし、そういう恵まれた学校だからいろいろできる。ただ、やはり、学校によっては、そういうふうになると本はなくなるわ、その図書館にあまり来てほしくない生徒がたむろしたりとか、そういう学校も実はある。調査した結果を基に、一律に、ではここまでみんなを引き上げようということになっていくと、多分、学校は困るかなと思う。ボランティアとか細かいことをするのはとてもいいと思うけれども、調査したことをどういうふうに活かしていくかということについては、もう一回、吟味していったほうが危なくなっていくのかなと思う。

やはり、中学校はどうしてもいろいろ学校の差がある。校長先生方は皆さん、図書館とかはできるだけ開館したいとか、読書は大事というのは思っている方が多いけれども、学校の実態によって、やはりどうしてもそうならざるを得ないという所も多分あると思う。

あと、先ほど、国語科という話があったけれども、私もできるだけ、図書館主任とかは国語ではない先生になってもらう。今の学校でも、社会科の人を図書館主任している。そうしたら、国語の人を手伝うから、図書館に興味がある人が増

える。確かに、先ほど委員が言ったように、ジャンルもいろいろ、歴史関係のとか、エコ関係のとか、いろいろ置いてある。やはりいろいろな方がしていくというのは大事だと思う。

会長／図書館主任を国語科以外にという具体的なノウハウを教えていただいた。

委員／どうしても図書、読書となると、学校の活動が、ほとんど今話されていることも学校においてのことなので、保育園とか幼稚園とかが、どういう場面で読書の裾野の広がりに関与していけるかなということを考えていたけれども、一つは、やはり自分の所に、保育園も絵本とかをかなりそろえているが、やはり、先ほどから出ているジャンルというのが、お話し絵本とかに偏らないよう少しアドバイスを頂きたい、相談したいと思う時もあるが、それをどこに相談していったいいの。自分たちの中だけで、話し合っているもので、せっかく子ども図書館が出来るのであれば、そこの司書の方に相談できるような機能を持たせていただくなど、図書館司書の学校への派遣はあるけれども、要請すれば幼稚園、保育園にも少し相談に乗っていただけるといふものがあると、裾野の広がりとか、ジャンルの広がりができるのではないかと思った。せっかく出来るのだったら、ぜひ、そういうところも考えてもらいたい。

それと、本当にこれは言うべきか迷いながら黙っていたけれども、シビックプライドというのもそうであるが、ご意見は「郷土愛」と書いてあるけれども、右側に来たら「シビックプライド」になっていて、例えば6ページの28番の方とかも、ほとんど片仮名語でずっと文章がいく。皆さんは専門で携わっていらっしゃる、そういう話が片仮名語でずっと連なっている、すぐ頭に浮かばれるのかもしれないと思うが、一般市民の方は、やはり、なかなかそういうふうにはストーリーテリングって何だとか、「完ぺきなパフォーマンスのおはなし会」と「フォーマルなストーリー」と書いていて、どう違うのかとか、そういうものがすぐ頭には浮かばないと思う。やはり少し片仮名語の多用は考えてもらいたい。

これは黙っていたのだが、少しだけ言わせていただいた。

会長／確かに。特にブックトーク、アニメーション、ビブリオバトルとなると、思っているかというのもあるが、こちらのプランは、最後に用語の索引、用語解説まで付いている、大変な努力だと思う。そこにシビックプライドについては説明がある。こういう丁寧な対応もしていただいているということも踏まえつつ、回答に関しては、もう少し片仮名語ではないほうがという意見だった。

それから、ご意見の前半にある子ども図書館についての要望というか、今後の子ども図書館についてのご意見等に話を移していきたい。

事務局／子ども図書館の機能で、29～30 ページに掲げているが、今後、いろいろ広げていくために、今までは中央図書館でいろいろな人材育成とかを行っていたものを、地区にある地区館でもそういうことができるようにするというので、そこでは市民センターの職員なども人材育成を推し量っていくということがある。ここには書いてはいないが、当然、保育所とか幼稚園といったところにも相談にも応じるし、いろいろな取組みは、今後、子ども図書館で出来ることは、そういったことも想定はしているが、今回、パブリックコメントの中では、一応、基本的考え方というのを示して、市民の意見を聞いてみた。

後ほど話そうとは思っていたが、今回、このプランを作るに当たって、ずっと推進会議を進めてきたけれども、プランが出来上がったら、この子ども図書館に関しては、どのような図書館にするのか、別途計画策定をして進めていく。その

ために、またその時にはパブリックコメントをかけるわけだが、その素案作りについて、また次回の会議以降、この会議で機能について再度練っていく。基本的には、ここの場所の改修を考えているが、どういった機能があるかということと、この建物の構造上の制約ととのことがあるので、その辺で、どんなことまでが可能なのか、少し調べた上で資料を出して、また、その中ででき得る機能などについて検討したいと思っているので、また今頂いた意見などをそこに反映させてもらいたいと思っている。

会長／そうすると、今回がいろいろな夢を盛り込むチャンスではあるので、できる・できないはともかく、意見があれば頂きたいと思う。前回、子ども図書館に限らなかったと思うが、自立的というか、主体的な子どもの読書活動推進という観点から、子どもがやる企画の場所提供ということが前回の機能の中で提案されていたと思う。一応、そういったものも考えているのか。

事務局／その辺も、十分考えていきたいとは思っている。繰り返しになりが、まだ、これは前段階なので、基本的考え方ということで示したので、機能としては、これからさらに十分検討していきたい。

会長／では、委員の方からも、何か意見や要望があれば。

委員／先ほどの、7つの区があって、区によって市民センターの活発さにすごく差があるというのは、私もすごく実感しているけれども、各区のコミュニティ支援課のやる気いかんで、その地域の市民センターで絵本講座が行われたり、いろいろな読み聞かせボランティア養成講座が行われたりというのが、すごく差があると思うので、このようにいいプランができたということを幅広く周知するために、各区のコミュニティ支援課にもっと働きかけることが必要ではないかと思った。

私もあちこちのコミュニティ支援課に訪れたことはあるが、確かに、このパブリックコメントが置いてあるけれども、話をしていると、読書に関する熱意というのはものすごく差があって、それは少しどうなのだろうと思うことが多いので、このような良いプランが出来たということ、学校だけではなく、コミュニティ支援課に働きかけることによって、それで地域の市民センター、末端のところまで行き届くのではないかと思う。

会長／この子ども読書プランの周知と理解という点に関しては、どのように進めていくのか。

事務局／先ほどご意見を頂いたコミュニティ支援課ということで、これはプランの素案の段階から各区にもご説明しているし、プランについては、ある程度、認識を持ってもらっている。その中で、先ほど、小倉北区の例を出したけれども、今後、他の区にもいろいろな形で子ども読書の推進について検討してもらいたいとは思っているが、教育委員会には各区に社会教育主事と社会教育主事補を配置している。こちらは、各市民センター等で事業を実施する場合に、アドバイスをしたりしている。そういったところから、その区、その地域の状況に応じてどう進めていくのかといったことは、コミュニティ支援課もそうだが、社会教育主事等を通じて進めていきたいと思っている。

それから、いろいろな広報ということでは、コミュニティ支援課以外にもいろいろな広報が必要になってくるので、プランが出来上がったら、ホームページには当然出すし、出前講演を行ったり、あと、このプランの取組みの一つでもあるけれども、家庭教育学級などでは、ぜひ、こういった読書を取り上げていただく

ように進めていくし、さまざまな形で、このプランと、この条例が出来たということ皆さんにぜひ周知をしていきたいと思う。

「子ども読書活動推進条例」ということで、資料の2ページ以降が条文になっているが、ここには「市の責務」というのがあり、それ以外に、学校であったり地域であったり、保護者といった方々が担っていただきたいこともこの条例の中には盛り込まれている。そういったことも含めて、いろいろな周知を行っていきたいと思っている。

委員／実は先月12月に、教育委員会の方をお願いして、やっていただいたが、学校図書館協議会というのがあり、それが管理職、校長・教頭で構成されているささやかなメンバーの会員なのだが、そこで、今言った条例等含めて子ども読書プランがどのようなものかということの啓発というか、お知らせというか、そういう研修を持たせてもらった。それは今からの第一歩ということで考えて、こういうふうにもいろいろと協力して、今からしていただけるのではないかと認識はしている。付け加えだが、この場をお借りして感謝したい。

会長／せっかく出来たプランなので、周知と理解、積極的な取組みを促すさまざまな機会、場所を通して進めていかれたらと思う。

情報提供等も積極的にお願いしたい。このプラン推進にあたってでも、子ども図書館の機能についてのご意見でも構わない。

委員／若松出身の山福朱実さんという絵本作家さんがいらっしゃって、その方の原画展を「九州の旅」として、今、巡回中である。第一のスタートが戸畑図書館だったのだが、やはり地元の作家さんということで、たくさんの方がお見えになり、600人以上の方が6日間で来られた。その中で、郷愁感があったり、哀愁感があったり、とてもいい意見を頂いた。子どもたちは、そこに原画があるのだから本も欲しい、その本を買って帰れないのという声もたくさんあったのだが、公共の場なので販売は駄目ということだった。当たり前のことだが、その時見た本をその場で買って帰りたいというのは心情的には分かるなと思ったが、絶対に公共図書館では本の販売はできないのか。

事務局／山福朱実さんの原画展には戸畑図書館をはじめ、八幡西図書館等、さまざまな図書館をご利用いただき感謝する。私どものほうにも、山福朱実さんの原画展が良かったというお声を利用者様から頂いている。先ほどの、本の販売について、公共施設ということもあり、図書館、市民センター等、いろいろな所での営利活動については、大変申し訳ないが、原則として販売はお断りしている。特に図書館なので、山福朱実さんの絵を使った本の貸出とか閲覧など、そういうところに結び付けていければよかったなというところで、今、少し反省として感じている。

会長／作家さんの講演などの後に、作家さんにちなんだ本を取りあえず集めて、貸出を促すという手もあるかなということだった。

委員／図書館と文学館はまた違うのかもしれないが、文学館でも、例えば夏休みに「のんたんの絵本展」とかがあって、その時に、絵本を買えるようになっている。それを販売しているのは、文学館の職員ではなくて、友の会の方である。

だから、よく分からないが、何か検討する余地はあるのかなという気はする。

会長／情報提供、ありがとうございました。では、他の意見等があれば。

これは、ちょっとした情報提供だが、プランの27ページの取組みの34番「絵本カーニバルの開催」とある。これは、一応、原案があると思うが、福岡教育大学の幼児教育講座の先生に「絵本カーニバル」、こういうイベントを専門とする方

がいらっしゃるので、もし必要があれば、紹介というか、橋渡しはできるかなと思う。

というような細かなことでも構わないので、どうぞありましたら。

委員／質問だが、絵本から次の段階になかなかつなげていけないので、「児童書カーニバル」ではないけれども、何か絵本の次の段階で取り組んでいるような何か楽しい催しというのは、北九州市で、絵本以外であるのか。

事務局／「絵本カーニバル」以外は特にはないが、児童書となってくると、市立図書館の中での行事ということになってくる。この「絵本カーニバル」、今、想定しているのは、我々と、また会員にもご協力いただきながら、フェスティバル的にやっぺいこうと考えているものだが、絵本から児童書となつて、児童書に関しては少し年齢が上がっていくので、学校図書館だとか市立図書館の中での行事を企画していくことになると思っている。

委員／できれば次の段階に進んだものを市で大きく何か一つやるのもいい。これは参考にならないが、うちが今、読書と音読「よむよむむフェスティバル」を試しているところ、絵本から次の段階に行くことのいろいろな取組みをしている。確か、語りの部屋があったり、ブックトークの部屋があったり、福岡がとてもいい取組みをしている。福岡はかなり読書に対する意識が高いので、大きいものを開いた時に割と人が来る。北九州も過去何度かあったが、割と閑散としていた。福岡の取組みが、北九州も参考になるのではないかと思う。

委員／絵本カーニバルの時も、絵本だけではなくて、児童文学も取り入れたりしているが、どうしても児童文学を読むというのは時間もかかり、何日か要るので、児童文学のほうは図書館で貸出しすることもできるということで、図書館で行うと良いと思うが、一応、絵本だけではなくて児童文学も展示はしている。

委員／児童書を子どもたちにつなげるということで、イベント的なことを図書館でやっぺいかどうかというご意見。想定しているような大きな取組みとしては、まだできていないが、「読書週間」や「子ども読書の日」など、それから通年で「家読のコーナー」など、図書館の児童書コーナーの所でテーマを設定し、子どもたちに手に取ってもらいたい児童書などを各図書館、分館で工夫して提供しているということはやっている。

今度、子ども図書館ができれば児童書を子ども図書館だけではなく、各図書館でどのように展開していくのかということも併せて子ども図書館のほうで企画していくことになるので、その中で検討していければと考えている。

会長／確かに、絵本から活字の読書への橋渡しは大切である。児童書の1つ前に、大きな活字で書いてあるような、「ぼくは王さま」シリーズとか幼年童話的なもので、絵本から児童書への中間ステップに橋渡しするような企画イベントというのは、ぜひあれば良いと思っている。

委員／先ほど子ども図書館の周知の方法で、教育委員会を通じて、また社会福祉主事さんたちを通じてということだったが、例えば保育所とか幼稚園とかは、どのようなことを考えているか。

子ども図書館そのものもあるし、この読書プランの作成もあるし、また子ども図書館を使ったいろいろな企画等もあると思うが、どのように考えているか。

事務局／いろいろな所に周知を図っていきたいと思っているが、幼稚園、保育所に関して今考えられるのは、年度が始まったら私立幼稚園連盟や保育所連盟に家庭教育学

級等のことでまた相談に行っているのですが、そういった機会を捉えて周知を図っていきたいと思っている。

委員／保育所連盟で、園長会を毎月1回開催しているが、園長全部が集まるので、そこによくいろいろな方が来られる。そこで周知すると一番広がると思う。

事務局／先ほど委員から紹介があったが、学校図書館協議会へのPRを昨年12月に行っており、その時も出向いたので、我々の方にお声掛けいただければ説明に伺う。

会長／パイプがつながって良かった。それでは、時間も押してきたので、意見交換・情報提供は以上にして、議事の(2)に移ってよろしいか。(2)は今後のスケジュールについての説明である。

では、事務局より今後の進め方などについて説明をお願いします。

事務局／資料の4「今後のスケジュール」ということで、資料を用意している。

本日議論いただき、本日午後、教育委員会会議があるので、そちらのほうでも報告して、ご意見を伺う。2月3日には常任委員会のほうで同様に報告をしてご意見を頂く。その後に、最終的な成案ということで2月9日に教育委員会会議に諮り、常任委員会にまた報告するというスケジュールで進めて行く。

子ども図書館については、来年度の予算で一応設計費が付く形で、今、進んでいる。従って、4月くらいになると思うが、また資料をそろえて皆さんに幾つかたたき台となるようなものを示し、子ども図書館に機能などについて議論をしてもらいたい。大体以上のような流れで考えている。

会長／プランもいよいよ2月に、一応成案を見る予定になっている。今後はプラン等の周知と理解、そして具体的な調査などもできれば踏まえてスタートという予定のようである。今後とも皆様の知恵や熱意に助けられながら、この子ども読書プランの実行にまい進していきたい。

事務局／今回の「新・北九州市子ども読書プラン」の作成にあたり、お忙しい中、昨年末より長期にわたりご審議いただき、本当にありがとうございました。

来年度以降は、この計画に沿った事業や子ども図書館の整備計画についてもまたご意見を頂くこととなる。

それでは、今後のスケジュールを再度確認するが、次回の会議は、新年度に入り、4月中旬～下旬を予定している。日程調整については、あらためて依頼する。

現在の予定は、3月に今回審議した「新北九州市子ども読書プラン」の冊子のできるのので、そちらを郵送する際に、日程調整表を同封して、次回、また4月に入ったら、新しく検討していただくよう考えている。

引き続きこの会議は、テーマを持って来年度も開催していくことになるが、今回、プランがまとまったというところで1つの区切りとして、教育長からお礼のご挨拶をさせていただきたい。

教育長／それでは、今年度の最後の会議なので、お礼も兼ねてご挨拶を申し上げたい。

こういう場合は、簡単にあいさつして「以上終わり」が一番いいのだろうが、少し長くなるかもしれないがご容赦いただきたい。

まず、この会議が始まり、皆さんに本当に毎回活発なご意見を頂いた。今日、男性委員はお一人だが、女性が多いとこれだけ活発になるかという、典型的ない会議だと私は思っている。本当にありがとうございます。

宿題等々、あるいは今後の提案も頂いたので、また、今日で終わりではないので、引き続き取り組んでまいりたい。

幾つかぜひここでということがあり、今までの議論のぶり返しになることが若

干あるかと思うが、1つは実態の調査です。皆さんから意見が出た学校の現場の実態、市民センターの実態、地域の実態、いろいろなことをまずきっちり校区、あるいは学校ごとに把握して、定量的に踏まえて、いいも悪いもそこからスタートするというのがもう全て基本であると思う。今、我々で把握しているデータももちろんあるし、副会長からも提案があったように、まずはきっちり押さえてみようということ、それはもう全く大賛成である。

私も2年前に就任し、全学校回った。本当に地域差、学校差がある。例えば、「学力テストの成績を学校ごとに出せ」という圧力が出て、「絶対出さない」というのが私のスタンスだが、それは学校ごとにいろいろな要因があるためだ。これは、少なくとも全国調査で言えているのは、家庭の社会経済的状況というデータがあって、例えば親の学歴、収入、家庭環境、収入ストックということで、実は結構な相関がある、これは公的な情報である。

子どもの貧困の話も出ているけれども、これも校区、地域によって相当の差がある。そしてデータを我々持っている。でもそれは出せない。これをPTAの方が調査をすると、それはPTAの方に行くということで、多分答えられなくなると思う。だから、そこは公的な我々の仕事だと思っている。そこはあまり無理されないほうがいいのかなと思っている。一方で、我々もそれを調べた後にデータを出すときに、生データは出せない。そうすると、ある程度の統計処理をしたりして全体的な特徴を出したり、幅の広がりを見てみたり、この中でどこを目標にしようかということになるのだろうと思う。

そういう意味で、地域差というのは非常にセンシティブでなかなか微妙な問題があって、こういう場に来られる方は、当然ながら活発な地域の方が多いと思うが、例えばブックヘルパーでも、募集したら何十人来てお断りするくらい困っている学校もあれば、誰も来なくて本当に開けるのがしんどいという学校が正直言っている。ここはこれで、それぞれの特徴に応じてということがある。

それから、学校の立場からすると、これは別の会議でこの前議論があったのだが、いろいろな社会の要請があって、例えば「子どもの読書をきちんと進めましょう」という、これは絶対したい、誰でもしたいと思っている。ところが、例えば3.11の後に、防災教育をしましょう、これはみんなしなければいけませんよねと。やらないと言ったら、何事だと学校は言われる。いや、福祉教育大事ですよとなる。今度、18歳選挙権になる、主権者教育をやれ。みんなそうなる。

その中で、実は、学校にはそれぞれの学校の事情、特色がある。いろいろな得意、不得意もある。先生という資源でどんな分野が得意という校長もいる。その中である程度選ばせていただいて、優先順位を付けて結構ですというのが私の立場である。この学校はぜひ読書を、ということをトップに挙げる学校もあればそれはそれでいいし、うちは海辺の町で防災教育を一番にしたいということで、そこに力を入れたいという学校もある。そこはご理解いただいて、その中でそれぞれがレベルを上げていくというスタンスでいきたい。

今日は最終案ではあるが、細かい文言の修正までもう終わっているというわけではないので、今日のご意見を頂いて、また常任委員会、教育委員会等々あるので、骨子はほぼ出来上がったということであるが、若干修正できるところは修正していきたいと思う。そして、最終的に年度内に確定させて、いよいよ次のステップだと思っている。

子ども図書館については、先ほど予算がという話をしているが、正確に言うと、

今、編成中で、今月末に市長の最終的な確認を経て、2月の中旬に正式に来年度何をするという発表になるが、何となく今の感じだと、順調に予算も付きそうかなという感じであるという状況報告である。

これから、また次のステップになっても、貴重なご意見を頂きながら、また前に進めていきたいと思うので、今後ともご支援をよろしくお願ひしたい。

本当に1年間、熱心なご議論、今後ともご協力いただくことをお願ひ申し上げまして、お礼のご挨拶としたい。どうもありがとうございました。

事務局／以上で「平成27年度第4回北九州市子ども読書活動推進会議」を終わる。後日、本日の議事録をまとめ、市のホームページで公表する。